

児童青少年委員会主催オンラインセミナー

「学校図書館の現場から 公共図書館のYAサービスに期待すること」
アンケート報告

開催日時：2020年12月7日（月）午後7時30分～9時

実施方法：Zoom

講師：横山道子氏（神奈川県立藤沢工科高校 学校司書）

司会：鈴江夏氏（児童青少年委員会、横浜市中心図書館）

主な内容：勤務されている高校図書館の紹介、イマドキの高校生、YAサービスの事例、
YAサービスへの期待、質疑応答

参加者：70人

回答者：39人

(1) あなたのお仕事は？（n：38）

公共図書館員 22人（57.9%）

学校図書館員 9人（23.7%）

その他 7人（18.4%）

その他の内訳：大学教員、文筆業、公共・学校図書館以外の図書館職員など

(2) このセミナーを何でお知りになりましたか？（複数可）（n：38）

日本図書館協会メールマガジン 11人（28.9%）

『図書館雑誌』 4人（10.5%）

『ヤングアダルトサービス研究会通信』 3人（7.9%）

その他* 23人（60.5%）

*その他の内訳：日本図書館協会HP、Twitter、知り合いからの情報など

(3) 参加の動機は？（複数可）（n：38）

「イマドキの高校生について知りたかった」 22人（57.9%）

「学校図書館について知りたかった」 28人（73.7%）

「公共図書館のYAサービスについて考えたかった」 28人（73.7%）

「その他」* 1人（2.6%）

*「その他」内訳：他県の学校図書館と公共図書館との連携についてなど知りたいと思った。

(4) 興味深かったのはどのパートでしたか？（複数可）

「学校図書館のようす」	27人 (71.1%)
「イマドキの高校生 (調査から)」	16人 (42.1%)
「イマドキの高校生 (現場から)」	23人 (60.5%)
「事例紹介・YAサービスへの期待」	22人 (57.9%)
「質疑応答」	10人 (26.3%)
「その他」	0人 (0%)

(5) セミナーに参加して新たにわかったことは？

出てきた疑問、今後考えてみたいことは？

※24人の方からご意見を頂きました。主なものを紹介します。

<全体的なこと>

- * 公共図書館がYAサービスを行う意味について改めて分かってよかった。
- * 「高校生は忙しいから公共図書館には来ない」は誤りであること。どのような仕掛けをしたら来てくれるのか考えたい。
- * 公共図書館と学校図書館それぞれのミッションや出来ることの違いについて、認識を深めることができた。

<イマドキのヤングアダルトについて>

- * イマドキの高校生を、現場で見えている部分だけでなく様々なアンケート調査を元に客観的な平均値の傾向を把握して現場のサービスにつなげようとしていた点は自分に足りない視点だった。感覚的なものだけでサービスを展開するのは、図書館に足を運ばない生徒たちを惹き付けることはできないことを再認識した。
- * 時代の状況によって、子どもを取り巻く環境が変わるため、それに敏感にならないといけないことを痛感した。その中で変わるものと変わらないものがあるため、そこを知り、それに対しての資料を準備する必要があると思った。

<公共図書館と学校図書館の連携・協力について>

- * 公共図書館と学校図書館の連携について工夫の余地が多いこと。連携の事例をもっと知りたい。今回は高校生についてだったが、中学生は職場体験の受け入れや一日図書館員などで連携のきっかけを作れると思う。
- * 今どきの高校生の読書や学校図書館の実態を垣間見ることができた。今後の学校支援の参考にしたい。
- * 学校と公共図書館とがお互いに知って、協力できることがたくさんあると思った。

<図書館の設備・備品について>

*図書館家具（今回のセミナーでは椅子）の効果について、今まで考えていなかったため、効果の種類や大きさを知り、他の（書架など）図書館家具についてもどのようなものが理想的であるか考えていきたい。

(6) セミナー全体の満足度 (n : 38)

「大変満足」	14人 (36.8%)
「満足」	22人 (57.9%)
「不満」	2人 (5.3%)
「大変不満」	0人 (0%)

(7) 今後、児童青少年委員会で、セミナーに取り上げてほしいテーマは？

※21人の方からご要望を頂きました。主なものを紹介します。

<全体について>

- *児童・青少年と電子図書館など
- *マンガ、ラノベの選書基準、YA世代との交流ツールについて

<公共図書館関連>

- *青少年向けの理論や、実践報告等のテーマについてニーズが高まっていると思う。
- *ヤングアダルト向けの選書・青少年への接遇(接し方)・様々な事例報告など
- *児童向けレファレンス
- *読むことに困難を抱える子どもに対しての支援方法。読書バリアフリー法が成立したので、それに関連して子どもに対してはどうか変化しているのか。

<公共図書館の学校図書館支援>

- *学校の授業に図書館がどう関わっていけるかについて
- *小学校に対して資料支援(団体貸出)をしているところは多いと思う。物流、情報交換、人的交流などの事例を知りたい。

<その他>

- *コロナ禍、図書館でおはなし会実施や動画配信するうえでの注意点や工夫など

(8) ご感想・ご質問など

※22人の方からご感想、1人からご質問を頂きました。ご質問は最後に横山氏の回答とともに掲載します。

<公共図書館と学校図書館との連携・協力について>

- * 公共図書館のヤングアダルトサービスに期待するだけでなく、学校図書館からも声をかけてほしい。公共図書館では自治体内の公立小・中学校とは連絡をとりやすくても、高校や私立学校とは接点がなく、連携の機会を持ちにくい場合も多い。もちろん、公共図書館の方でも接点を持つ努力や行動は必要だが、「問い合わせ」という大義名分や突破口があると助かる。
- * 学校と公共図書館が個人的に知り合わないと連携できないミクロレベルの状況が続いているのであれば、もっと上の層からつながりやすくなるようなメゾレベルの地域の読書政策への働きかけが必要と思った。

<公共図書館について>

- * 学校図書館はその学校の生徒のための仕事をするところ。公共図書館は、人が生涯にわたって学習するための本を扱うことができる。地域のYAサービスは、地域の人の生涯の学びや人生を支えていく保障の一つとなって欲しい。
- * 公共図書館でのYAサービスに悩むことがあったので、今回の講座でYAサービスを行うことの意義や利点を講師の言葉として再度聞いたのは励みになった。

<学校図書館について>

- * 授業や学習面での先生方への働きかけや、どのような点に留意して選書されているのか気になった。

<その他>

- * 地方住まいなので、近隣の県で開催される全国大会や学校図書館部会の夏季研究集会は参加してきたが、こうしたセミナーに参加したことはなかった。オンラインでのセミナー開催は、大変ありがたい。コロナが収束してもこのようなオンラインでのセミナー開催を継続していただけたらありがたい。
- * 案内表示、コーナー作り、公共図書館との連携等参考になった。
- * 70人を超える講習会だったが、講師の方の顔もハッキリ見え、チャットの書き込みもリアルタイムで見ることができた。内容は充実していて、とても参考になった。

<アーカイブ配信の要望>

途中から試聴できずに消化不良な状態です。ぜひアーカイブ配信を希望します。

→『図書館雑誌』2021年3月号でセミナーの報告を掲載します。

<質問>

椅子と高校生の利用頻度について、調査を行った資料などはありますか？

<講師からの回答>

椅子の重要性は、私が経験的に知っていることをお話したもので、何らかの研究結果に基づくものではありません。ただ、滞在型図書館の増加に伴い、設備の一つとして重視される傾向にあると思います。図書館利用者満足度調査などで設備の満足度も問われています。「図書館 満足度 椅子」で検索すると多くの調査結果で椅子や座席に言及があります。場の雰囲気敏感なY A世代では特に、居心地の良い空間づくりは重要だと思います。